取締役会長メッセージ

ASVによる独自の価値創造を通じた持続的な成長に向けて、ガバナンス体制の強化に継続して取り組みます。

代表取締役
取締役会長
伊藤 雅俊

ガバナンス体制は着実に進化

当社は、「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」にふさわしい、「機動的な意思決定」と「適切な執行の監督」を可能にする体制の構築に向けた取り組みを加速しています。取締役会の議長とCEOの役割を分離して実効性を高めるとともに、「機動的な意思決定」については、「ガバナンスに関するグループポリシー」に基づき、「統率するHQ」と「任される現場」のコンセプトのもと、各組織の機能と責任を明確化したことで、「任される現場」の機動力と効率性が着実に高まっています。

「適切な執行の監督」については、その実効性を高めるべく、2017年より、社内取締役6名と社外取締役3名のコンパクトな体制に移行したことで取締役会の議論が活発化したと実感しています。また、審議基準の見直しにも継続的に取り組み、取締役会（臨時開催を除く）の議案数は2016年度の平均5.3件から2017年度には3.9件へと減少しました。これにより、企業戦略の方向性や中長期的な課題・方針等について議論する時間を増やすことができましたが、今後はさらに取り組みを進め、意見を一層引き出せるようにしていきたいと考えています。

成長につなげるガバナンスを目指して

味の素グループは、事業を通じて社会課題を解決し、社会価値を創造した結果として、経済価値を創造するサイクルで成長を遂げてきました。しかし、社会価値を創造した結果として経済価値が生まれるというロジックには様々な要因が絡み合っています。例えば、アミノ酸が健康に良いからといって、アミノ酸製品の種類を増やせば売上が上がるほど商売は簡単ではありません。利益というのは社会や人々の役に立って初めて得られる対価です。この認識に立ち、人々の日常や人生に役立ちながらも、さらに健康や栄養の改善にも寄与するというストーリーを自らの製品を軸に描き、具現化することこそ味の素グループが目指すASVです。変化の激しい社会の中で、人々に何をどう食べてもらいたいか、味の素グループの提案を受け入れてもらうにはどんなアプローチが考えられるのか。生活者の変化をより深く理解して、事業を開発していくことが今後ますます求められます。

社会価値を経済価値へと結び付けるには様々な要因が複雑に絡みますが、現場と本社が一体となって、その複雑な要因に向き合えば、効率もスピードも製品力ももっと向上するはずです。また、取締役会でもこうした議論を増やすことができれば、時機を見て経営計画を考え始めるのではなく、日頃から中長期的な視点で課題や戦略を整理でき、本当の意味で、コーポレート・ガバナンスの最適化が実現できるのではないかと考えています。

持続的な成長に向け、ガバナンスを引き続き強化

ダイバーシティ推進の加速は、多様な価値観や考え方をグローバル経営や事業運営に反映する上で極めて重要です。多様な人財をより積極的に役員・経営幹部に登用していけるよう人財育成に一層取り組み、また外部の専門家もより活用していきたいと考えています。

取締役会の多様性についても、色々な視点を入れる方向で、そのあり方を継続的に検討していきます。ただし、形式にこだわるあまり、現場とかけ離れるようでは本末転倒です。私自身、現場の状況を理解し、それと同期していくことを常々意識してきました。経営陣が自ら現場で小売店や市場を歩き回り、現場を知る努力を重ねていることは、今後も続けていくべき味の素グループの良きDNAです。

味の素グループが持続的に成長するには、世界中の各地域の生活によりよく貢献できる仕事を続けていくことが必要です。その結果、製品やサービスを通じて各地域でブランドが評価されるような仕組みを構築していくことが重要です。今後も、味の素グループ独自の価値創造を実現すべく、ガバナンスの強化に努めていきます。株主・投資家をはじめ、ステークホルダーの皆様には、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

2018年7月
代表取締役　取締役会長

伊藤 雅俊